

ユニセフ
年次報告

2012

unite for
children

unicef 

表紙

© UNICEF/NYHQ2011-1588/Bell

カザフスタンのアルマティにて、緊急時の話に熱心に耳を傾ける幼稚園の子どもたち。この幼稚園は、国内で初めて、ユニセフの災害リスク削減プログラムに取り組んだ学校のひとつ。

本書に掲載されている情報の出典について:本報告書のデータは、ユニセフ（国連児童基金）、各国連機関、ユニセフの各国事務所が提出している年次報告書、ならびに 2013 年 6 月 18 日～ 21 日に行われた執行理事会に提出されたユニセフ事務局長年次報告書のデータに基づくものです。

本書に掲載されている資金（表記）について:断り書きがない限り、金額はすべて米国ドル表示です。

印刷後の誤りや訂正は、<www.unicef.org/publications> でお知らせします。

ユニセフ執行理事会

ユニセフは36カ国の代表から成る政府間機関の執行理事会が管理し、ユニセフの政策を決め、事業を承認し、管理・財政案や予算を決めている。理事国は、国連経済社会理事会で選出され、任期は3年となる。執行理事会の年度は、1月1日から12月31日まで。

理事会役員（2012年）

議長：

ジョン・W・アシェー（アンティグア・バーブーダ）

副議長：

ビルガニム・アイティモバ（カザフスタン）

マチャリア・カマウ（ケニア）

ニナ・ノードストローム（フィンランド）

カリン・カウプ（エストニア）

2012年の理事国：

アルバニア、アンティグア・バーブーダ、オーストリア、ベラルーシ、カナダ、カボヴェルデ、中国、コロンビア、コンゴ、キューバ、エルサルバドル、エストニア、フィンランド、ガンビア、ドイツ、ハイチ、インド、インドネシア、日本、カザフスタン、ケニア、マラウイ、ナミビア、オランダ、ノルウェー、パキスタン、ポルトガル、カタール、韓国、ロシア、ソマリア、スペイン、スウェーデン、チュニジア、英国、米国

目次



はじめに

ii



第1章

子どもたちのために
より公平性のある世界を

iv



第2章

最も弱い立場にある人々の
ために成果をあげる

10



第3章

難題に立ち向かい、
立ち直る力を育成する

18



第4章

戦略的パートナーシップで
より大きな成果を

22



第5章

新戦略によるガバナンスの改善 30

はじめに

2012年度は、子どもたちにとって、成果が認識できる年となりました。「ミレニアム開発目標（MDGs）」の達成期限が近づく中で、いくつかの嬉しいニュースがありました。貧困率の低下、ポリオの根絶が間近に迫っていること、予防接種の一層の普及、通学する女の子の増加、清潔な水と栄養へのアクセスが改善されたこと、5歳の誕生日よりも長く、健康に成長し続けている子どもたちが今まで以上に増えていることです。

しかし成果があがったとしても、それを前進をやめる言い訳にはなりません。開発というはしごの最下段にしがみつき、もがき苦しんでいる子どもたちがあまりに多いからです。例えば、サービスが行き届かない遠隔地に住んでいるため、予防接種を受けられない男の子、学校で権利を尊重されていない女の子、紛争地で身動きがとれないまま、子どもたちのために食料・水・医薬品を必死に求める親たち、ジェンダーや民族的背景または障がいがあるために社会から置き去りにされている何百万人もの子どもたちがいます。

こうした子どもたちに、必要なサービスを届けなければなりません。2012年度、ユニセフは、こうした子どもたちにサービスが行き届くよう目標を設定し、業務の合理化を行いながら革新的な技術で強化を図りつつ、より費用対効果の高い成果を目指しました。

2012年度には、このほか、「子どもの生存を守る：あの約束を再び」キャンペーンも開始しました。これは、防げるはずの病気で子どもたちが命を落とすのを防止しようとする世界的な動きの中でも、新しい局面の幕開けを告げるものとなりました。2012年末までに、168の政府と、400を超える市民社会団体・宗教団体の代表者が、すべての子どもが可能な限り最良の人生のスタートをきれるよう、一層努力することを固く誓ったのです。

人道危機が紙面のトップニュースを占める状況が続き、ユニセフもこれらの危機に注力することになりました。ユニセフとパートナー機関は、2012年度に、計79カ国、286の人道危機に対応しました。例えば、約1,900万人の人々に清潔な水を提供し、サヘル地域では、重度の急性栄養不良に苦しんでいる92万人を超える5歳未満児に栄養補助を行いました。

シリアでの過酷な紛争に巻き込まれた子どもたちや家族のため、ユニセフは、シリアと近隣諸国のパートナー機関と協力し、140万人を超える子どもたちにはしかのワクチンを提供し、26万3,000人を超える人々に冬の支援物資・医薬品・非食料品を配給したほか、およそ7万9,000人の被災した子どもたちを対象に教育を提供し続けました。これは、国境を越えて日々増加する難民も対象となりました。

ユニセフはまた、「国際援助透明性イニシアティブ」に加盟し、内部監査報告書・評価報告書・現地事務所の年次報告書の開示を積極的に進めることにより、事業機能のアカウンタビリティ（説明責任）と透明性を強化しました。

達成した成果を徹底的に見直し、今後の目標について精力的に議論した上で、ユニセフは、



2014～2017年の新しい中期計画を完成しつつあります。その焦点は、子どものための公平性です。目標は、子どもがどんなに離れたところやどんな僻地にいようとも、また、どのような障壁が立ちふさがっていても、世界中の子どもひとりひとりにサービスを届けることです。

皆様のご支援なくしてこの目標は達成できません。厳しい経済状況にもかかわらず、前年度以上の資金援助を皆様よりいただいたことは、ユニセフの事業に対して紛れもなく明白な信頼をいただいているためだと理解しております。ユニセフの使命に対して皆様よりいただいたご支援は、世界の子どもたちの将来のために欠くことのできない投資です。それは必要な投資なのです。そう子どもたちのために、そして私たち自身のために。

ユニセフ事務局長
アンソニー・レーク

© UNICEF/NYHQ
2012-0013/Mawa
ダッカにある、暴力や搾取に遭う可能性がある女の子たちのためのドロップインセンターで、たくさんの子どもたちに囲まれて座るユニセフのアンソニー・レーク事務局長（中央）。